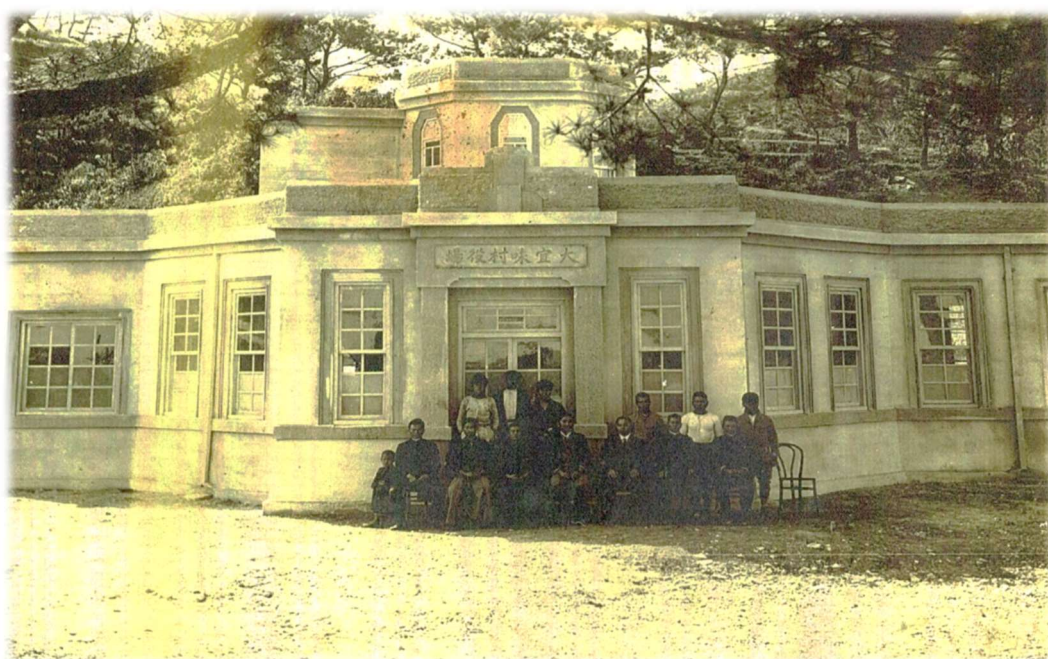


大宜味村史 普及版



令和 7（2025）年 3 月

大宜味村史 普及版

大宜味村史の発刊について

平成24年度からスタートした新大宜味村史編さん基本計画に則り、令和6年度までに発刊された下記の10編について、各編の発刊趣旨並びに目次を記述することで、それぞれの概要を大まかに把握できるようになっている。それぞれの詳細については、各編をご覧ください。

いふなれば本誌「普及版」は、大宜味村史各編への入口として活用していただければ幸いである。

新大宜味村史各編紹介

1、新大宜味村史「シマジマ・ビジュアル版」 わーけーシマの宝物 平成26（2014）年3月 ……	3
2、「戦争証言集 渡し番」 平成27（2015）年3月 ……	4
3、「シマジマ本編」 平成28（2016）年3月 ……	6
4、「移民・出稼ぎ編」 平成29（2017）年3月 ……	7
5、「民俗編」 平成30（2018）年3月 ……	8
6、「言語編」 令和2（2020）年3月 ……	10
7、「人と自然編」 令和4（2022）年3月 ……	11
8、「写真集」 令和4年（2022）年12月 ……	12
9、「通史編」 令和7（2025）年3月 ……	14
10、「資料編」 令和7（2025）年3月 ……	16

1、新大宜味村史「シマジマ・ビジュアル版」わーけーシマの宝物

発刊年： 平成 26（2014）年 3 月発行

価 格： 1,000 円

説 明： 大宜味村を構成する 17 のシマ（集落）ごとの歴史・文化・自然・人のつながりなどを「シマの宝物」ととらえ、写真を多用してコンパクトに紹介しています。

目 次

大宜味村の概要	3
---------	---

大宜味村の人口、世帯数の変遷

年齢別人口構成表とグラフ

産業構造の変化	4
---------	---

マク名について	5
---------	---

大宜味村の各字のマク（マキ）名

バールについて	6
---------	---

大宜味村各字の班・バール区分（平成 24 年度調査）

明治～大正期の大宜味村の字別戸数人口の推移

各シマの概要（来歴、行事、組織、名所、旧跡など）	
--------------------------	--

田嘉里	10
-----	----

謝名城	14
-----	----

喜如嘉	20
-----	----

饒 波	28
-----	----

大兼久	32
-----	----

大宜味	38
-----	----

根路銘	42
-----	----

上 原	46
-----	----

塩 屋	50
-----	----

屋 古	58
-----	----

田 港	64
-----	----

押 川	70
-----	----

大 保	74
-----	----

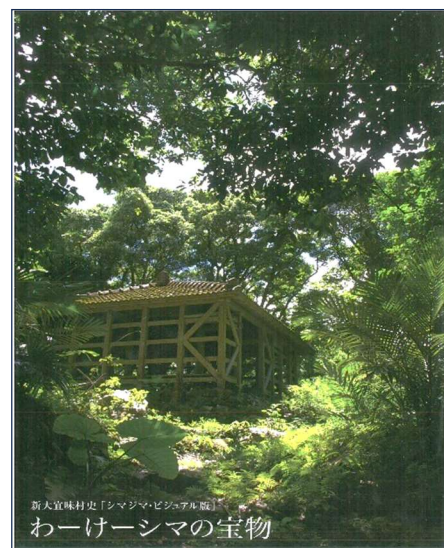
白 浜	80
-----	----

宮 城	84
-----	----

江 洲	88
-----	----

津 波	92
-----	----

間切・むらの変遷	98
----------	----

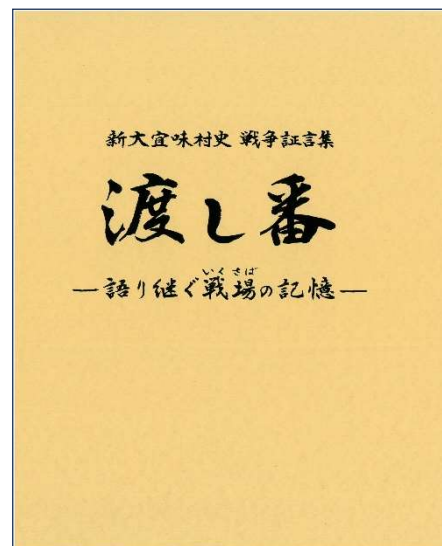


2、「戦争証言集 渡し番」

発刊年： 平成 27（2015）年 3 月発行

価 格： 無償

説 明： 戦後 70 年という節目にあたり、戦争体験者の記憶を次世代へ語り継ぐという思いを込めて、大宜味村外を含め 68 名の証言をまとめ収録しています。



目 次

霊魂之塔（忠魂碑）2

「憲法九条」の意味を今いちど一序文にかえて
漂流六日間

学童疎開船「対馬丸」遭難事件生存者 平良啓子
..... 15

凡例 17

心のたんぽぽ 18

新大宜味村史 戦争証言集

【田嘉里】 21

- ・ 計り知れない母の悲嘆と苦労を思う
- ・ トランクいっぱいの遺骨を抱いて帰った父
- ・ イクサの置き土産で“禁じられた遊び”
- ・ 転戦転戦で命をすり減らした過酷な七年間

【謝名城】 45

- ・ 目の前で敗残兵掃討 一下山時の恐怖
- ・ 戦前・戦中・戦後を区のために奔走
- ・ 恩納岳から逃避行二か月 シマの目前十メートルで命拾い
- ・ 兵隊行かんしやツーニンギンアラン
- ・ 謝名城で一軒だけ燃やされた家

【喜如嘉】 65

- ・ 非業の死を遂げた二人の兄
- ・ 公人に徹した父の面影
- ・ ウーマクー少年の目に映ったイクサ

- ・ パラオの思い出と引き揚げ後の生活
- ・ 南洋から持って来た晴れ着をイモと交換
- ・ 幼い目に焼き付いた日の丸の腕章

【饒波】 87

- ・ 山中のガマに避難
- ・ 戦後は「ヌーハ」が通行証の代わり
- ・ 殺気立ったアメリカ兵に囲まれ命が縮む思い
- ・ 汽車で十二時間の大冒険

【大兼久】 103

- ・ 至近距離に米兵、寝ている弟を抱いて石になる
- ・ 自分も泣きながら妹達をあやす
- ・ 男という男はみんな兵隊に
- ・ 終戦直後の混乱の中、父の遺骨を求めさまよう

【大宜味】 125

- ・ 目の前に落ちた艦砲弾が不発で命拾い
- ・ 戦場の露と消えた二人の兄

【根路銘】 131

- ・ 米軍のシェパードに追われ必死に逃げる
- ・ 臨月のお腹を抱え山で出産
- ・ 小学生も徹夜作業
- ・ 何度も夢に見て飛び起きた空襲の記憶

【上原】 143

- ・ 戦を生き延びた命をマラリアが次々に奪う
- ・ 南部の激戦地を三か月さまよう

【塩屋】..... 149

- ・ 自給自足で満ち足りていた戦前の暮らし
- ・ 恩納岳で艦砲の雨を潜り抜けて
- ・ 暮らしの中に迫る戦争の影
- ・ 空腹にたえられず布団の中で大根をガリガリ
- ・ 紡績の思い出とイクサ場の沖縄
- ・ 運命を分けた出征の日の空襲と山中の百日

【屋古】..... 175

- ・ 今でも夢に見るイクサの恐怖
- ・ 率先して竹槍を握る愛国心の塊
- ・ 徴用に明け暮れ戦火に追われた青春
- ・ 紡績から帰っても家はなく収容所へ
- ・ 突然押し入ってきた黒人兵の恐怖

【田港】..... 191

- ・ 紡績の友に助けられた戦後の収容所生活
- ・ 幼い娘と奥山で息をひそめた避難生活
- ・ 出稼ぎ先から流転・流転
- ・ 苦勞して山に上げた米は友軍に奪われ
- ・ 海を渡った励ましの恋文

【押川】..... 205

- ・ 押川・戦時点描
- ・ 幼子の手を引き山の中で長男出産
- ・ アメリカ兵に囲まれタマシヌギル
- ・ 静かな山での暮らしをかき乱す戦の影
- ・ すぐ近くで掃討戦

【大保】..... 221

- ・ 大家族の労働力として働きづめの青春時代
- ・ 伊江島徴用で空襲に迫られる
- ・ 体が大きく海軍に推される
- ・ 伊江島で十・十空襲 墓の中で骨壺を抱いて眠る

【白浜】..... 235

- ・ 武器も食料もけた違い—それでも日本は勝つ

【宮城】..... 241

- ・ 一回目の徴用で十・十空襲、二回目の徴用は上陸と重なる
- ・ 年老いた両親を支えながらの避難生活
- ・ 兵隊はハガキ一枚の消耗品

【津波】..... 251

- ・ “イキグワングワや宝”位牌になった兄たちと話す父の背中
- ・ 日本兵が奪っていった父の望遠鏡
- ・ 一番怖かったのは日本兵
- ・ 米兵に驚いて海に転落—悲しすぎる妹の死

【寄稿】..... 263

- ・ 戦時下の青春
- ・ 疎開者の文章
- ・ 疎開者の体験
- ・ “毒入り”と恐れていた食糧を奪い合い

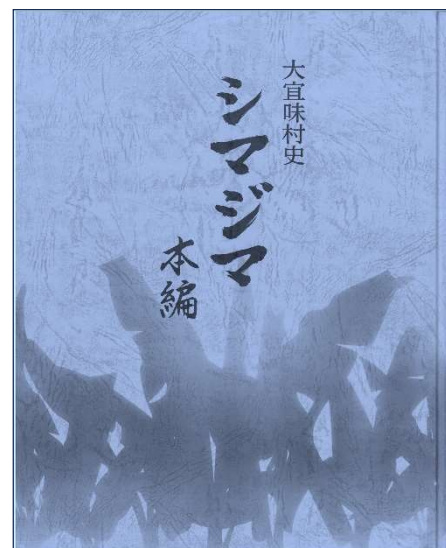
用語解説 277

3、「シマジマ本編」

発刊年： 平成 28（2016）年 3 月発行

価 格： 3,000 円

説 明： 大宜味村を構成する 17 のシマ（集落）ごとの歴史・文化・自然・人のつながりなどの「シマの宝物」を、「シマジマ・ビジュアル版」よりも深く掘り下げて調査・編集しました。



目 次

大宜味村の地形図	25
大宜味村の地質図	27
大宜味村の植生図	29
地形及び地質の概要	31

第一章 大宜味村のムラの宝物

一、大宜味村の遺跡	36
二、大宜味村内のマク	37
三、大宜味間切の村の変遷	38
四、史料にみる大宜味のムラの変遷	39
五、大宜味間切の村と役人	40
六、根謝銘（ウイ）グスクと按司地頭と総地頭	40
七、根謝銘（ウイ）グスクの御嶽とイベ	41
八、国頭間切の国頭（クンジャン）は 根謝銘（インジャミ）？	43
九、根謝銘（ウイ）グスクと集落と村（ムラ）	44
十、近世の山原の方切	45
十一、間切番所の移転 （田港→大宜味→塩屋→大宜味〈大兼久〉）	45
十二、元文検地の印部石（ハル石）	46
十三、間切役人と地租徴収の手続き	46
十四、大宜味間切の杣山の種類	49
十五、大宜味間切における猪垣の修築	50
十六、耕作下知方並諸物作節附帳	50
十七、田港御嶽と大宜味御嶽の祠の香炉	52
十八、明治の大宜味間切	54
十九、『南嶋探験』（笹森儀助：東洋文庫より）	55

二十、大宜味間切の宿道	56
二一、大宜味間切のノロの遺品	56
二二、大宜味間切の神アサギ	60
二三、明治初期の大宜味間切の村の規模	60

大宜味の歴史年表	61
----------	----

第二章 大宜味村 各シマの宝物

田嘉里	67
謝名城	87
喜如嘉	111
饒 波	139
大兼久	157
大宜味	173
根路銘	193
上 原	211
塩 屋	227
屋 古	255
田 港	267
押 川	283
大 保	297
白 浜	313
宮 城	327
江 洲	337
津 波	349

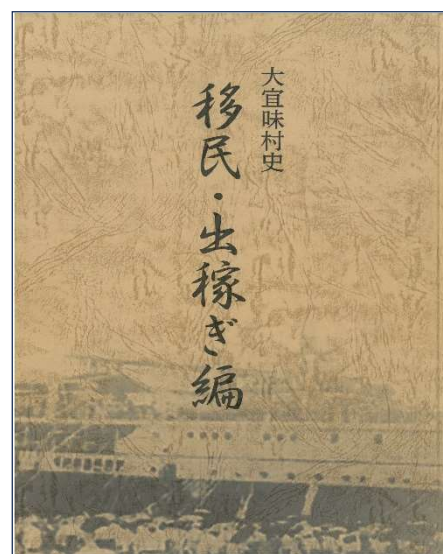
4、「移民・出稼ぎ編」

発刊年： 平成 29（2017）年 3 月発行

価 格： 3,000 円

説 明： 山原の厳しい自然環境に囲まれた本村において、生活の糧を得る手段は限られ、少しでも豊かな生活を求めて出稼ぎが慣例化し、新天地に活路を求めて移民として旅立つ人々も多く、「移民村大宜味村」として広く認識されてきた。

本編では、外務省の海外旅券下付表から本村から渡航者を丹念に拾い出し、記念誌や手記なども最大限に活用して、地域、国、時代等、様々な視点からその状況を分析すると共に、八重山開拓移民については現地調査を行い、移民一世の証言を収録しています。



目 次

第一章 大宜味村の海外移民状況

- 一、戦前大宜味村出移民の全体的考察 23
- 海外旅券下付表（大宜味村出身者） 28

二、戦前大宜味村出移民の各国（地域）別考察

一、北米・アメリカ

- (一) ハワイ 67
- (二) アメリカ合衆国本土 73
- (三) カナダ 79

二、中南米

- (一) メキシコ 83
- (二) ペルー 93
- (三) ブラジル 109
- (四) アルゼンチン 119
- (五) ボリビア 125

三、東南アジア

- (一) フィリピン 133
- (二) シンガポール 145
- (三) インドネシア（ジャワ、セレベス） .. 153

三、戦後大宜味村出移民の名簿 159

第二章 外地引揚げ

- 外地からの引揚げ状況概要 167
- 引揚者給付金請求書処理表 170

第三章 県内移住

- 第一節 八重山開拓移住 209
- 第二節 江洲開拓移住 296
- 第三節 県内の郷友会活動 307

第四章 各字に見る移民・出稼ぎ

- 第一節 各字に見る移民 317
- 第二節 各字に見る出稼ぎ 365

第五章 移民・出稼ぎ関係資料 393

第六章 母村との交流

- 世界のウチナーンチュ大会 427
- 南米移住者子弟研修生受入事業 434

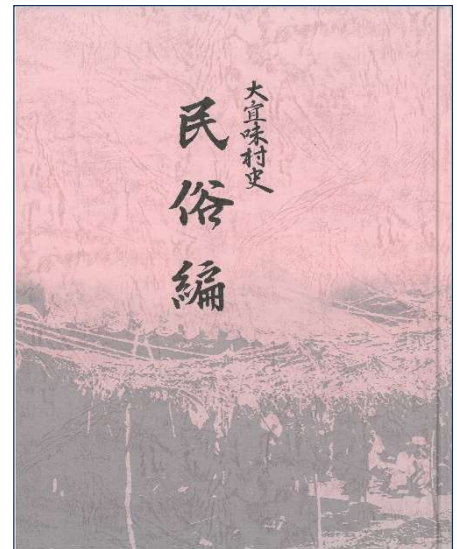
大宜味村 移民・出稼ぎ関係年表 436

5、「民俗編」

発刊年： 平成 30（2018）年 3 月発行

価 格： 4,000 円

説 明： 本村の民俗文化の源流となっているノロ管轄ごとのあゆみや変遷、近世の各集落における衣食住などの生活形態、冠婚葬祭など人の一生に関わる儀礼や年中行事等について、字誌や個人が遺した資料なども網羅して収録しました。



目 次

第一部 大宜味村の民俗

第一章 戦前・戦後の大宜味村の歩みと本書の概要

第一節 大宜味のマク（マキヨ）とムラ・シマ・33

一、大宜味間切（村）の村（字）の変遷36

二、史料にみる大宜味のムラの変遷37

第二節 『琉球国由来記』の神アサギとムラ38

第三節 大宜味間切のノロ管轄村と遺品44

一、屋嘉比ノロの管轄村とノロ殿内の遺品44

二、城ノロの管轄村とノロ殿内の遺品45

三、田港ノロ殿内48

四、津波ヌル殿内跡、神アサギ 48

第四節 城ノロ管轄のウングミ50

一、城ノロ管轄のウングミ（昭和初期の調査） 50

二、城登り（グシクヌブイ）と神人（カミンチュ） 52

三、城（グシク）のウングミ（平成八年）の調査 53

四、謝名城のウングミ調査（2016 年）54

第五節 屋嘉比のウングミ調査（2016 年）56

第六節 地割と大宜味間切内法と土地整理58

一、土地制度58

二、租税制度62

三、農政と林業64

四、村行政と地組（引）制度65

五、大宜味間切の疲弊と身売り67

六、大宜味間切村内法と地割68

七、土地整理と大宜味間切村図70

八、身売りの事例75

九、糸満売りの事例77

第七節 大宜味の番所の変遷80

第八節 消えゆく習俗—針突81

第九節 山の生活と仕事86

第二章 塩屋湾のウングミ

第一節 沖縄本島北部のウングミ・ウングジャミ ..92

第二節 塩屋湾の海神祭の概要92

第三節 海神祭の呼称92

第四節 参加する村落の範囲と村落構造94

第五節 四カ（カ）の祭祀組織概略95

第六節 儀礼の準備99

第七節 儀礼過程

一、ウンケー（迎神儀礼） 101

二、田港アサギでの儀礼 101

三、屋古アサギでの儀礼 103

四、ハーリーでの船漕ぎ 104

五、兼久浜・青年浜での儀礼 104

六、各村落での祭祀終了儀礼 105

七、白浜の豊年踊り 105

八、ヤーサグイ 105

九、塩屋豊年踊り 106

十、サーサイ 107

第三章 神人によって司祭される宗教的年中行事

—塩屋湾周辺（四カ）の事例

第一節 ニングワチウマチー〈二月お祭〉 110

第二節	サングワチサンニチ〈旧三月三日〉	110
第三節	ハチウイミ〈初折目〉〈悪虫払〉	110
第四節	アブシバレー〈畦払い〉	111
第五節	ワハグサアシビ〈若草遊〉	111
第六節	グンガチウマチー〈五月お祭〉	111
第七節	アクウイミ〈明折目〉	112
第八節	ミーメー〈新米〉	112
第九節	ウンガミ〈港内海神祭〉	112
第十節	ハチグワチウグワン〈八月お願〉	112
第十一節	クングワチグワー〈九月小〉	113
第十二節	マーラニ〈マラニ〉	113
第十三節	ウンネー〈ウンネー〉〈ハイヤマ〉	113
第十四節	現行の宗教的年中行事の分類	114

第四章 墓制—塩屋湾周辺の墓帰属と門中—

第一節	沖縄の墓制と門中	116
第二節	対象地域—塩屋湾周辺の四カ	116
第三節	村落と門中・墓地	
一、	門中	117
二、	墓地	118
第四節	墓帰属にみる門中	119
第五節	おわりに	121

第五章 通過儀礼における衣服

—大宜味村喜如嘉の場合—

第一節	はじめに	124
第二節	儀礼における衣服の特徴	
一、	カホー、カホーギリ	124
二、	ナーチキギン	124
三、	ピゲーギン	125
四、	初アッキー、グワンスウガミ、 ニーズウガミのきもの	125
五、	タンカーボジギン	125
六、	十三祝までのきもの	126
七、	十三祝のきもの	126
八、	下着	126
九、	ニビキの衣装	127
十、	花嫁行列の女の人が被るきもの	127

十一、	生年祝のきもの	127
十二、	死者のきもの	129
十三、	参列者のきものと被りもの	129
第三節	儀礼と衣服の関わり	
一、	きものの背縫いとマブイ	130
二、	マブイをぬかされないために	130
三、	きものを新調する意味	131
四、	被りものとしての衣	132
五、	まとめ	132
第四節	おわりに	133

第二部 大宜味村 各シマの民俗

田嘉里	(ヤハムティ・ヤカムティ)	137
謝名城	(インジャミ・ネジャミ・ニジャミ)	165
喜如嘉	(キザハ・キジャハ・チジュカ)	219
饒波	(ヌウファ)	297
大兼久	(ハニク・ウフガニク)	343
大宜味	(イギミ・ウジミ)	387
根路銘	(ニミ・ニルミ)	429
上原	(ウイバル・ウィーバル)	485
塩屋	(サー・スヤ)	509
屋古	(ヤフ・ヤク)	569
田港	(タンナ)	579
押川	(ウシカー・ウシチャ)	597
大保	(テーフ)	611
白浜	(トノキヤ・トゥヌガー・トゥヌジャー)	665
宮城	(マーグシク・ナーグシク)	675
江洲	(イシブロー・イーシウフドー)	689
津波	(チファ)	697

第三部 大宜味村の民俗地図

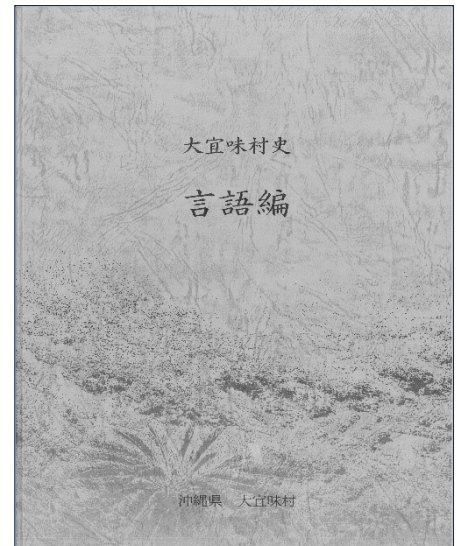
田嘉里	748	謝名城	754	喜如嘉	758
饒波	764	大兼久	768	大宜味	772
根路銘	776	上原	780	塩屋	784
屋古	788	田港	792	押川	798
大保	802	白浜	804	宮城	806
江洲	808	津波	810		

6、「言語編」

発刊年： 令和2（2020）年3月発行

価 格： 3,000 円

説 明： 時代と共に変化・消滅しつつある大宜味村の方言を、記録・継承していくことを目的に、研究者による大宜味村の方言に関する解説のほか、927の語彙について村内16字において行なった調査の成果を、見やすいように一覧表にまとめました。



目 次

第1章 生活の中に息づく方言

第1節 大宜味村の概要と変遷	19
第2節 各集落のあゆみ	21
第3節 大宜味村の成り立ちと資料からみる言語分布	38
第4節 7つの視点から大宜味村の言語を見る	40

第2章 大宜味村の方言

第1節 はじめに	51
第2節 大宜味村の方言の位置	51
第3節 大宜味村方言研究のあゆみと調査資料	52
第4節 大宜味村方言音韻の特徴	65
第5節 語彙	99
第6節 語法	101
第7節 語彙の言語地図	113

第3章 大宜味村各集落（シマ）の方言一覧表

大宜味村各集落（シマ）の方言一覧表について	135
調査語彙一覧	137
表記のための仮名遣い表	144
1、声門破裂音	145
2、カ行子音のハ行化	146
3、ハ行子音のファ行化・パ行化	149
4、口蓋化現象が少ない	152
5、促音化現象が多い	154
6、長母音化現象が少ない	169
7、アクセント	170
8、語彙語法の特徴 名詞	183

9、動詞	240
10、形容詞	243
11、副詞	264
12、連体詞	310
13、接続詞	321
14、感動詞	327
15、助詞	353
各集落（シマ）方言一覧表被調査者一覧	379

第4章 資料編

a、『大山成子「琉球方言における二音節名詞のアクセント」』1962年5月	387
b、『琉球方言研究クラブ『琉球方言』第5号』1963年5月18日	388
c、『琉球方言研究クラブ『琉球方言』第6号』1964年5月25日	389
d、『琉球方言研究クラブ『琉球方言』第7号』1966年4月20日	390

『琉球列島の言語の研究』

『名護・やんばる地域の言語の研究』	393
-------------------	-----

『おおぎみの昔話』	451
-----------	-----

『書いて残そう島々の言葉』ぬばがい	468
-------------------	-----

『島クトゥバで語る戦世』	471
--------------	-----

『喜如嘉（キズカ・キザハ）語（ムニ・グチ）集』	493
-------------------------	-----

7、「人と自然編」

発刊年： 令和4（2022）年3月発行

価 格： 4,000 円

説 明： 総面積の80%が山林原野におおわれる大宜味村の人々は、昔から自然との関わりの中から、その恵みを糧に暮らしてきました。

今も我々の背後に広がり、発展を阻む元凶とされてきた広大な山林地帯は、近年、その豊かさに世界的な注目が集まり、2021年には世界自然遺産に登録されました。それは、生物多様性は勿論のこと、そこに住む人々が、自然と共存して来た足跡をも包含した文化遺産として高く評価されたものであります。

本編においては、研究者による記述や、村内全字において行われた聞き取り調査の成果を収録し、本村における人と自然の関わりを後世に受け継いでいく目的で発刊しました。

目 次

第1章 大宜味村の自然

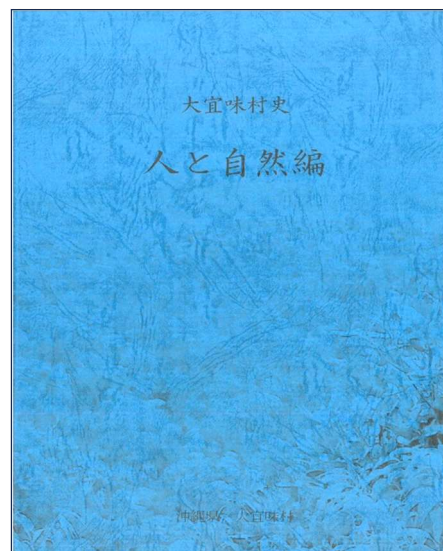
- 第1節 大宜味村の地形と地質……………3
- 第2節 大宜味村の植物……………11
- 第3節 大宜味村の動物……………28
- 第4節 大宜味村の自然（総括）……………54

第2章 シマジマの自然と暮らし

- はじめに……………59
- 第1節 田嘉里……………69
- 第2節 謝名城……………99
- 第3節 喜如嘉……………129
- 第4節 饒 波……………157
- 第5節 大兼久……………187
- 第6節 大宜味……………219
- 第7節 根路銘……………241
- 第8節 上 原……………269
- 第9節 塩 屋……………299
- 第10節 屋 古……………339
- 第11節 田 港……………359
- 第12節 押 川……………381
- 第13節 大 保……………411
- 第14節 宮 城……………435
- 第15節 江 洲……………457
- 第16節 津 波……………481

第3章 自然利用の伝統的知識

- 第1節 自然利用の景観……………517
- 第2節 動植物の方言および記憶と記録……………555
- 第3節 未来に向けて……………561

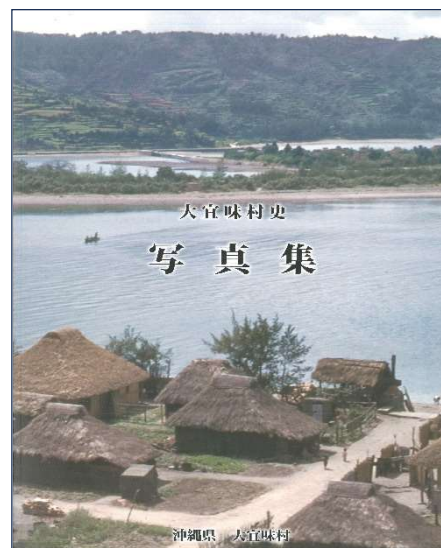


8、「写真編」

発刊年： 令和4（2022）年12月発行

価 格： 3,000 円

説 明： 「写真はものの言わぬ史実」と言われるように、一枚一枚から人々の暮らしの表情が伝わってきます。懐かしい古き良き原風景から、発展し続ける現在までの時代の移り変わりが感じられる1冊となっています。



目 次

第1章 年表で見る村の移り変わり

明治～大正	11
昭和（戦前）	19
昭和（戦後）	29
平成～令和	45
17字の公民館	63
主要施設	66
文化財及び記念物	68
人口と世帯数	72

第2章 くらしと産業

日々の生業	75
生業から産業へ	80
かかりつけ医—イシャヌヤ—（診療所）	90
くらしにかかせない水	92
野辺送りに利用された龕ガン	95
コラム 渡野喜屋（白浜）の賑わいと渡し船	96

第3章 日常の一コマ

区民の心の拠り所 共同売店	99
集落のたたずまい	100
郡道から軍道、国道へ	102
日々の営み	107
コラム テレビが来た！	112

第4章 地域の絆・地域の力

未来を照らす希望 子ども	137
--------------	-----

コラム ユーフルヤ—	146
------------	-----

第5章 教育・スポーツ

教育	149
スポーツ	168

第6章 時代の肖像

海外移民	184
八重山移民	188
江洲開拓移住	191
紡績女工	198
大宜味大工	201
波之上詣で	203
コラム 世界のウチナーンチュ大会—海外へ 翔び立った大宜味村出身者と母村の交流—	209

第7章 古い写真で見る昔と今

むかしやあんしえったん—懐かしい昔の風景—	
1. “陸の孤島”に風穴—大国トンネル—	214
2. 根謝銘（ウイ）グスクの神アサギ	215
3. 喜如嘉入り口	216
4. インナトゥで遊ぶ子供たち（喜如嘉）	217
5. ふた組あったともだちの木	218
6. 大兼久川（シャーロット台風）	219
7. 旧庁舎米寿祝い（トーカチューエー） にちなんで	220
8. 道路の様変わり	221

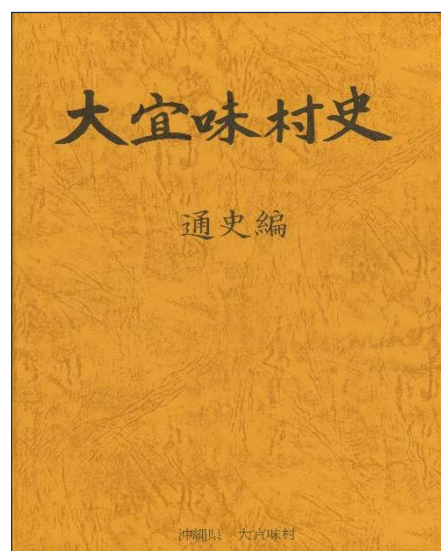
9. 大宜味街道（塩屋）	222	役場庁舎の変遷	287
10. 兼久浜	223	木造から鉄筋コンクリート造へ	
11. 塩屋橋完成記念切手、赤橋のナゾ	224	—大宜味村公設質屋—	293
12. 塩屋大橋開通の光と影	225	塩屋大橋	295
13. 大保橋	226	小学校・中学校の変遷	303
14. 渡野喜屋の渡し	227	保育所・幼稚園・こども園	328
15. 住民一体となって架けられた宮城橋	228	辺土名高等学校	332
16. たくましい江洲の学童	229		
17. 津波国道沿い	230	写真・資料提供者一覧	338
鳥の視点で見るいまむかし	231		
コラム 時代の関門—大國隧道（トンネル）—			
.....	246		
第8章 災害の爪跡			
水害と復興の記録 1950 年代	249		
シャーロット台風の被害状況			
1959（昭和34）年	255		
チリ地震津波 1960（昭和35）年	264		
史料に見る明治以降の大宜味村の自然災害	265		
各地域の防災訓練の様子	270		
第9章 発展する大宜味村			
農村総合整備モデル事業	275		
大保ダム建設	276		
塩屋湾外海公有水面埋立事業（結の浜の創出）			
.....	279		

8、「通史編」

発刊年： 令和 7（2025）年 3 月発行

価 格： 3,000 円

説 明： 昭和 53 年度に発刊された大宜味村史「通史」
の内容に、本土復帰以降から令和 6 年までの村の
出来事を加筆しまとめた内容となっています。



目 次

第 1 章 自然の概況

第 1 節 地形	33
第 2 節 地質	36
第 3 節 植物	37
第 4 節 動物	44
第 5 節 自然（総括）—多様な自然環境と生物相—	58

第 2 章 先史古代

第 1 節 先史時代	63
第 2 節 グスク時代の遺跡	67
第 3 節 国頭按司と根謝銘城	67
第 4 節 根謝銘城遺跡と遺物	70

第 3 章 近 世

第 1 節 大宜味間切の創設	77
第 2 節 番所機構と間切役人	79
第 3 節 土地制度	85
第 4 節 租税制度	91
第 5 節 農政と林業	93
第 6 節 村行政と地組（引）制度	100
第 7 節 間切の疲弊と身売り	102
第 8 節 異国船の来琉	104

第 4 章 近 代

第 1 節 廃藩置県と土地整理	111
第 2 節 村政の展開	120
第 3 節 戦時下の村政	180

第 5 章 戦 後

第 1 節 戦後の村政	211
第 2 節 戦後の教育	225
第 3 節 開拓移民	230
第 4 節 戦後の産業	243

第 6 章 復帰後

第 1 節 農林水産業	253
第 2 節 商工業	265
第 3 節 観光業	268
第 4 節 福祉	272
第 5 節 教育・文化	288
第 6 節 全国規模のスポーツ大会の開催	305
第 7 節 生活環境	337
第 8 節 村政の進展	369

第 7 章 民 俗

第 8 章 方 言

第 1 節 大宜味村の方言の概要	397
第 2 節 大宜味村各集落（シマ）の方言一覧表 について	398
第 3 節 大宜味村及び各字の方言の特徴	404

第 9 章 災 害

第 1 節 自然災害	409
第 2 節 シャーロット台風の爪痕	419
第 3 節 地震と津波	430

第4節 水害・高潮など	434
第5節 河川での水難事故	440
第10章 文化財	
大宜味村の猪垣（ヤマシシガキ）	445
塩屋ウフンチャのハスノハギリ	445
塩屋湾のウングミ	446
田港御願の植物群落	447
喜如嘉板敷海岸の板干瀬	447
喜如嘉の芭蕉布	448
大宜味御嶽のピロウ群落	448
大宜味村役場旧庁舎	449
津波のビーチロック	449
國頭郡大宜味間切各村全圖及び字圖	450
第11章 各字の概要	
田嘉里（たかざと）	453
謝名城（じゃなぐすく）	459
喜如嘉（きじょか）	466
饒波（ぬうは）	469
大兼久（おおがねく）	471
大宜味（おおぎみ）	476
根路銘（ねろめ）	480
上原（うえはら）	489
塩屋（しおや）	491
屋古（やこ）	498
田港（たみなと）	503
押川（おしかわ）	506

大保（たいほ）	509
白浜（しらはま）	514
宮城（みやぎ）	517
江洲（えす）	519
津波（つは）	523

第12章 共同売店	529
-----------	-----

第13章 各種団体	
第1節 青年会	547
第2節 婦人会	556
第3節 老人クラブ	568

第14章 郷友会	
第1節 郷友会	585
第2節 海外と沖縄を結ぶ動き	593

附録

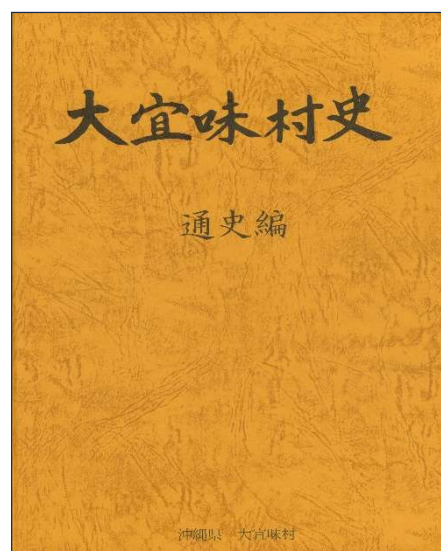
年表	597
歴代村長、助役・副村長、収入役、教育長	639
歴代議長、副議長、議員	643
人口（男女別）・世帯数	653
歳入決算額	654
歳出決算額	661

10、「資料編」

発刊年： 令和7（2025）年3月発行

価 格： 3,000 円

説 明： 昭和53年度に発刊された大宜味村史「資料編」の構成内容を大きく変えることはせず、各字のウムイや芸能、古文書などの新たに収集した資料等を追加し、人物においては「百人の足跡」として、市井の人々の功績にも光を当てました。



目 次

解 説.....	20	第6章 歌 謡.....	80
「大宜味村誌」（昭和9年刊）			
解 説.....	22	第7章 我が村の名所旧跡.....	92
『大宜味村誌』			
序 論.....	23	第8章 口碑伝説	
		第1節 人物伝.....	99
第1章 大宜味村沿革概要		第2節 土地に関する口碑伝説.....	101
第1節 本村村域の変遷.....	26	第3節 小話.....	102
第2節 村勢の伸張.....	28	大宜味のウムイ.....	105
第3節 村政沿革.....	29	〔追補〕 各字に伝わるウムイ.....	117
		〔追補〕 各字に伝わる芸能.....	143
第2章 教 育		近世期の資料	
第1節 藩政時代の教育概観.....	34	解 説.....	212
第2節 廃藩後の教育概観.....	38	1「球陽」.....	214
第3節 本村小学校教育沿革大要.....	39	2「琉球国高究帳」.....	219
		3「琉球国由来記」.....	220
第3章 宗 教		4「琉球国旧記」.....	225
第1節 固有の宗教.....	47	5「御当国御高並諸上納里積記」.....	227
第2節 其の他.....	52	6 文子福地仁屋より買入仕明証文並手形写.....	227
		7 本琉球内大宜味間切城村人数改帳.....	230
第4章 風 俗		〔追補〕 己年 大宜味間切屋嘉比村切支丹宗門改帳.....	231
第1節 神事.....	55	8 宮城大屋子宿移之時下人並種々日記.....	235
第2節 人事.....	62	9 元祖江宿移之時現在取べ帳.....	238
第3節 迷信.....	65	10 戌年冠船御申請の時の米銭御借入之儀.....	240
第4節 年中行事.....	70	11 田畑譲り渡しについて口上覚.....	241
		12「近世地方経済史料」.....	242
第5章 言 語.....	73		

13 大宜味間切下知役のこと	247
14 山城家文書	247
15 字饒波根神屋文書	249

明治期の資料

解 説	262
1 惣耕作当万控帳	265
2 琉球藩雑記	281
3 沖縄旧慣地方制度	281
4 明治十三年の大宜味間切村名	283
5 上杉県令巡回日誌	284
6 津口手形	287
7 大宜味間切内法	288
8 明治二五年頃の大宜味間切要覧	297
9 沖縄県大宜味地方旧慣問答書	302
10 大宜味間切村字名	312
11 大宜味間切饒波村反別筆数取調	313
12 杣山開墾許可及び国有林払下げの件	315

大正・昭和期の資料

解 説	322
1 天野鍛助覚書	324
2 大宜味郵便局移転資料	328
3 大宜味村政革新同盟関係資料	336
4 大宜味村経済更生計画	366
5 大宜味尋常高等小学校の食物調	396
6 敗戦直後の饒波部落日誌	398

天野鍛助の日記抄録

解 説	404
村会覚手帳	405
日 記	409

大宜味村関係新聞記事集成	465
--------------	-----

奥付（昭和五十三年発刊）	515
--------------	-----

大宜味村の人物 一百人の足跡一	517
-----------------	-----

辞令書など	561
-------	-----

大宜味間切図・村全図	571
------------	-----





